

令和元年6月10日現在

機関番号：32504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03528

研究課題名（和文）サハラ・サヘル地域における国家横断的経済ネットワークの分析：安全保障の新秩序形成

研究課題名（英文）Analysis of Cross-Border Economic Informal Network in Sahara-Sahel Region:
Formation of A New Security Order.

研究代表者

吉田 敦（YOSHIDA, ATSUSHI）

千葉商科大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：20559835

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：サヘル地域のイスラーム過激派動向、およびマリ、ニジェール等のサヘル諸国の治安状況について分析を進めるとともに、武器、麻薬等の越境的な非合法取引の分析を実施した。現在、「不安定化の弧」と呼ばれるサヘルからスーダンに抜ける帯状の地域は、テロや反政府武装勢力による反乱が頻発するホットスポットと化している。本研究では、特にマリ共和国における武力衝突や危機の背景を足掛かりにして、サヘル地域における危機の様相を、イスラーム主義勢力および国境を超えた「国際犯罪組織ネットワーク」の存在を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のアフリカ研究では、北アフリカもしくはサハラ以南アフリカに研究領域を限定して進められることが多かった。だが、本研究課題では、サハラ・サヘル地域を一体的に捉えることで、同地域の政治的不安定化・紛争の要因を新たな視点で解明することに重きをおいている。そのためには、国境を超えてインフォーマルに活動するイスラーム主義勢力及びトゥアレグ等で構成される非政府武装勢力、及び国際犯罪組織ネットワークによる合法・非合法の経済的ネットワークの把握が必要である。最終的に、サハラ・サヘル地域における暴力的過激主義に対する新しい安全保障の課題の把握と秩序形成に向けた学術的理論構築に貢献したい。

研究成果の概要（英文）：This analysis was conducted on Islamic extremists in the Sahel region and the security situation in Sahel countries such as Mali and Niger, as well as analysis of cross-border illegal trade such as arms and drugs. Currently, the Sahel region called "the arc of destabilization" that passes from Sahel to Sudan has become a hot spot where terrorism and rebels by insurgent militants frequently occur. In this study, based on the background of armed clashes and crises, especially in the Republic of Mali, I have identified the existence of the "international criminal organization network" that transcends Islamist powers and borders in the aspect of the crisis in the Sahel region.

研究分野：アフリカ資源開発

キーワード：サハラ・サヘル 非合法貿易 資源開発 アフリカ イスラーム主義勢力 紛争

1. 研究開始当初の背景

本研究は、北アフリカ地域からサヘル地域にかけてのイスラーム過激派に関する分析、および紛争・暴力の現状、さらには、国家横断的な経済ネットワークの分析に重きを置いている。

これまで、北アフリカ地域のイスラーム過激派に関する研究領域は、同地域の近隣に位置し、密接な関係を取り結んできた西欧諸国においては重要な国際問題と認識されており、多くの先行研究が存在する。ヨーロッパでは、フランスの政治学者ジル・ケペルによるジハード主義の構造分析 (Gilles Kepel, *Jihad, Expansion et déclin de l'islamisme*, Gallimard, 2003.) や歴史学者ベンジャマン・ストラによる北アフリカ (アルジェリア) のイスラーム過激派を含む現代社会内部の対立構造の歴史研究 (Benjamin Stora, *Histoire de l'Algérie Coloniale 1830-1954, La Découverte*, 2004) があり、国内研究においても北アフリカ・イスラーム主義に関する包括的な歴史・政治構造の研究 (私市正年『北アフリカ・イスラーム主義運動の歴史』白水社、2004年) がある。

また中東地域のイスラーム過激派の国内研究に関しては、山内昌之 (明治大学) をはじめとして、高岡豊 (中東調査会) 保坂修司 (日本エネルギー経済研究所) など、広域かつ数多くの学術研究がある。しかしながら、以上の研究動向を踏まえても、近年、急激な政治的不安定化が顕在化しているサハラ・サヘル地域のイスラーム過激派勢力の動向については、国際機関及び国外研究者による限定的な研究に留まっている。例えば、AQMI の資金源の特定に関する分析 (Serge Daniel, *AQMI L'industrie de l'Enlèvement*, Fayard, 2012.) 越境的な非合法 (不正) 貿易 (武器、タバコ、麻薬等) の分析 (Williem Van Schendel and Itty Abraham (eds.), *Illicit Flows and Criminal Things: States, Border, and the Other Side of Globalization*, Indiana Univ. Press, 2015.) OECD によるサヘル地域の地政学的研究 (OECD, *An atlas of the Sahara-Sahel: Geography, Economics and Security*, Paris, 2014.) があるが、いずれもサヘル・サヘル地域の総合的な研究には至っていない。

そこで、本研究では、イスラーム過激派の地域を越えた動向に重心を置き、国内外の研究領域で手薄であったサヘル・サハラ地域を一体的に捉える挑戦的課題に位置付けられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、サハラ砂漠の北側に位置する北アフリカ地域とサハラ砂漠の南縁に位置するサヘル地域を一体的に捉え、当該地域における「国家横断的」経済ネットワーク (合法/非合法) の分析をおこなうことで、当該地域の政治的不安定化 (紛争、テロ活動) の発生要因の一端を解明することにある。

現在進行中であるサハラ・サヘル地域における政治的不安定化・紛争の要因を明らかにするには、当該地域の国家機能の「脆弱性」の問題とともに、多孔質的な国境 (不十分な国境管理) を利用した越境域 (Trans-Frontier) を特徴とするイスラーム過激派 (及び非政府武装勢力) の合法・非合法の経済的ネットワークの把握が不可欠であり、既存の研究領域の枠組みを超えた新たな安全保障の課題を抽出していくことが極めて重要な命題である。最終的に既存の研究領域の統合化を試み、同地域の暴力的過激主義に対する新しい安全保障の課題の把握と秩序形成に向けた学術的理論構築に貢献することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、「国家横断的」な活動を続け、アフリカ地域のみならず、欧米及び我が国にとっても重大な脅威となっている暴力的過激主義 (AQIM、ボコ・ハラーム等) を中心とする (非合法) 経済ネットワーク (身代金、麻薬等の密輸、湾岸産油国からの資金援助、武器の密輸等) の分析をおこなう。

このことにより、非政府アクターの活動資金源を特定するとともに、その経済ネットワークや当該諸国及び近隣諸国の国家能力とそのレジリエンス (強靱性) のあり方を検討する。また、最終的な発展的成果として、我が国を含めた当該地域に対する新しい外交・安全保障の秩序形成に向けた要諦を把握することも視野に入れている。

以上の目的を達成するために、以下の3点を重視しながら研究を実施した。

(1) サハラ・サヘル地域における地政学、非合法貿易、資源開発、紛争・暴力に関連した近年の学術研究動向を網羅的にサーベイし、政治経済的な実態解明と論点の明確化。

(2) サハラ・サヘル地域を一体的に捉え、暴力的過激主義の非合法的取引を含む経済ネットワークの解明。

(3) 現地フィールド調査及び欧州紛争研究所でのヒアリングを実施し、欧州及び米国の危機管理・安全保障政策の動向を把握し、サハラ・サヘル地域における新しい外交・安全保障の秩序形成に資する論理の構築 (学術的貢献) と体系化・精緻化。

4. 研究成果

平成28年度は、サハラ・サヘル地域の地政学に関する国内外の研究動向をサーベイし、その知見および論点整理をおこなうとともに、国外の研究動向について、研究者と専門機関での情報・資料収集を実施した。

サハラ・サヘル地域の特定諸国における資源開発状況については、既に研究成果（ニジェールのウラン開発、チャドの石油資源開発）をあげており、一定の知見を有している。そこで平成 28 年度においては、当該地域における資源開発の全体像を把握するために、当該地域の資源国であり内戦国であるマリ共和国の国内情勢及び資源開発状況を分析した。また、本研究計画の目的と直結する「国家横断的」経済ネットワークの現状把握に向けて、「武器」、「合法/非合法取引」、「違法薬物・タバコ」、「マネーロンダリング」、「移民」などをキーワードとした網羅的な文献調査・研究をおこない、各国毎の資源開発状況とあわせて、本研究課題との関連性を整理した。以上の研究成果は、論文（雑誌論文）として発表した。また、地中海を挟んだ北側ヨーロッパ世界と南側北アフリカ世界における政治経済、歴史、文化、社会（生活様式）やアイデンティティ、情報メディアの役割など多岐にわたる分野をテーマとする著作の翻訳（図書）をおこなった。

平成 29 年度は、サヘル地域のイスラーム過激派動向、およびマリ、ニジェール等のサヘル諸国の治安状況について分析を進めるとともに、武器、麻薬等の越境的な非合法取引の分析を実施した。本研究成果をもとに、公刊書として発刊すべく研究成果の取り纏めに着手すると同時に、当該研究分野以外の分析も同時並行的に進めていった。研究の要点のひとつであったサハラ・サヘル地域における地政学、非合法貿易、資源開発に関連した学術研究動向については、概ねサーベイを完了し、実態解析と論点の明確化を実施した。

また、現地フィールド調査としては、9 月にかけてコートジボワールを調査対象国として選定し、現地調査を実施した。当地では、日系商社、国際協力機関、現地大学機関等でのインタビューおよび情報収集をすることができた。また、イスラーム原理主義のテロ現場となった地域も視察できた。

2018 年 3 月に、個人研究の一環として石油を中心とした資源開発分野の世界的な研究者のひとりであるマイケル・ロス（Machel Ross）（カリフォルニア大学ロサンゼルス校：UCLA）教授と面談をおこない、アフリカにおける資源開発についての意見交換をおこなった。さらに一次産品のグローバルな商品連鎖に関する歴史研究をおこなっているスティーブン・トピック（Steven Topik）（カリフォルニア大学アーヴァイン校：UCI）教授との意見交換も実施した。

研究期間の最終年度となる平成 30 年度は、以上の研究成果と現地調査から得られた知見をもとに、引き続き、研究の取り纏めをおこなった。平成 30 年度内に、本研究課題を含めてアフリカの石油資源開発、鉱物資源開発、さらに農地開発といった多岐にわたる論考を執筆して、取り纏め作業を続けてきたが、残念ながら平成 30 年度内での公刊には至らなかった。本研究成果は、ほぼ完成に近づいており、2019 年度内での公刊を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

吉田 敦「西アフリカにおける麻薬密輸ネットワーク イスラーム主義勢力との共存関係」
JIIA 『Radical Islamist Research Report』Vol.9, 2017, pp.1-9.

〔学会発表〕(計 1 件)

比較歴史社会学研究会『アフリカにおける資源開発と政治的不安定性』2017 年 9 月 16 日、
於早稲田大学。

〔図書〕(計 1 件)

翻訳（フランス語）

ブーシュラ・ラムウニ・ベンヒーダ（吉田 敦訳）『文明の交差点としての地中海世界』白水社、2016 年、総 152 ページ。

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。